

「生活応援 おそうじ隊」事業

路上生活を余儀なくされている人への支援を続けつつ、
居宅生活に移行した人が再び路上に戻らないようサポート

「できる人ができる時にできる事を」をモットーに、多くのボランティアとともに15年にわたってホームレス支援を続けてきた仙台夜まわりグループ。震災の影響で路上生活となる人がいる現状の中で、路上生活から居宅生活へ移る支援にとどまらず、そこでの孤立化や再転落を防ぐために、きめ細かいサポートを行う新たな事業を立ち上げた。

ボランティアによるホームレス支援に加え、
すべての生活困窮者に支援の輪を広げる

2000年1月、厳寒の冬の仙台の路上でホームレスが亡くなることのないようにと、3名の有志が味噌汁やゆで卵、おにぎりなどを携えて「夜まわり」を開始したことが、「仙台夜まわりグループ」のスタートだという。

その後、路上生活者を対象とした市内の公園におけるカレーライスの炊き出し、シャワー利用の提供、健康管理や問題解決をサポートするためのセミナーの開催、居宅確保のための簡易住宅の提供、法人として古物商免許を取得したうえで、部屋を確保した元路上生活者に対して生活必需品を安価で提供するリユース事業、路上生活者に対して更にシャワーのみならず洗濯の場所も提供する

衛生改善事業(仙台市委託事業)、有償清掃ボランティア事業(同助成事業)など、同グループは路上生活者に対するきめ細かい活動を継続的に展開している。こうした活動を担っているのは、主婦や学生、リタイヤした人などから成るボランティアで、30名前後が常時、関わっている。また、必要な資金や物資は、全国の支援者や企業からの寄付や助成によっているという。

2011年の東日本大震災では、事務所周辺の被災住民に備蓄していた食材を使った炊き出しや物資の提供を2週間行ったが、「そのとき、これまでの活動で顔見知りになったホームレスの方々が住民を助けるために来てくれました」と、スタッフの竹内朋子さんは語る。震災後の2013年10月には、仙台市をはじめ、東北地方のあらゆる生活困窮者を対象に、年中無休、ほぼ終日対応(8:00~21:30)で相談を受け付ける「HELP!みやぎ生活困窮者ほっとライン」を開所した。竹内さんによれば、「それまでぎりぎりの生活を強いられていた人、全国各地から震災関連の仕事を探しに来て就労できなかったり、仕事の終了とともに解雇された人、震災支援からこぼれた人などが、一気にホームレスになる傾向が見られる」という。



清掃を手伝ったり、生活に関するさまざまな相談にのるおそうじ隊のスタッフ

お宅を訪問してお手伝いいたします!

生活応援おそうじ隊

050-5539-6789 (毎週月曜を除く10~15時受付)

散らかった部屋を片付けたい!
ゴミの出し方がわからない...
掃除の仕方を教えてほしい!
簡単にできる調理方法を教えてほしい!
初めての1人暮らしで不安です... などなど
こんな悩みを抱えていらっしゃる方
私たちがお手伝いします!!

2名のスタッフが自宅を訪問して、お部屋のクリーニング、快適生活のためのアドバイス、料理や家計管理のノウハウを丁寧にお伝えいたします。
利用料 一回4時間以内 3,000円
まずはお電話ください!

特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ

年月	2000年1月	夜まわりを始める	7月	路上生活支援炊き出し開始
	2004年1月	法人化	4月	第2種社会福祉事業所提供事業開始
	2005年8月	救済支援/ユース事業開始	10月	有償アルパイト提供開始
	2011年3月~	被災者支援炊き出し、避難所炊き出し、孤立した被災者への支援物資提供、様式支援などを行う		
	2013年10月	生活困窮者ほっとライン「HELPみやぎ」開始		

「生活応援おそうじ隊」の活動は、仙台夜まわりグループが全日本社会貢献団体機構の平成25年度社会貢献団体助成金を受けて行っています。

2014年に新たに立ち上げた「生活応援 おそうじ隊」の告知チラシ



健康管理のアドバイスもスタッフの大切な役割

自律への長期的なサポートを目的に
「生活応援 おそうじ隊」を立ち上げる

昨年4月、AJOSCからの助成を受けてグループが新たに立ち上げたのが、「生活応援 おそうじ隊」事業である。これは、グループが仙台市内に確保しているアパートの部屋約90室に一時的に入居したり、そこから公営住宅などに移った元路上生活者が、生活破綻によって再び路上生活に戻ることがないように、長期的にサポートしていくものである。

基本的に2名の主婦からなるおそうじ隊(状況によっては男性も入れて3~4名)が、居宅生活に移行した当事者のもとを訪れ、健康、家計、生活などの問題の相談に

担当者より



支援活動の基盤と
スキームづくりに
助成が役立ちました

仙台夜まわりグループ
スタッフ
竹内朋子さん

「生活応援 おそうじ隊」の結成と、その支援活動のスキームづくりの経済的な基盤に助成を活用させていただきました。ボランティアに対価をお支払いでき、対象者との深い関わりも構築できました。2015年度以降も事業を継続していくことはもちろん、この事業をさらに発展させ、生活困窮に陥った高齢独居者の生活の伴走から看取りに至るまでサポートしていくことが理想です。

乗りながら、自律への手助けを行う。おそうじ隊のスタッフは、以前からボランティアとしてグループの活動に加わっていた人を中心に15名前後で構成されている。訪問回数は要請者の状況に応じて、週1~2回であったり、月1回であったりとさまざまで、1回あたり4時間以内が平均である。2014年4月から2015年3月までの1年間に、延べ192回の訪問を行ったという。

「それまで家事などしたことがないという方が多いので、掃除、ゴミの出し方、簡単な調理、生活のリズムなど、主婦の生活者目線で細かいケアをしていただいています。『徘徊癖が治まり、基本的な生活習慣が身についた』という方や、数回の訪問で信頼関係を築くうちに病気を我慢していたことがわかり、適切な治療に結びつけることができたため、「スタッフの訪問が楽しみだ」と明るい表情で話してくださる方もいます」と、竹内さん。

路上生活を長く続けていた人は、居宅生活に移ったことでかえって孤立化するケースが少なくなく、むしろそこからが大変だという。そうした人が、自らの前向きな意思で自分の人生をデザインしていくことができるような、まさに“自律”を支援していきたい。自律のための機会や方策、セーフティネットがどれだけあるかが、社会の豊かさを表わす一つの指標ですと、竹内さんは話す。